

府立和泉支援学校



テーマ：見つめよう！語り合おう！子どもたちに育てたい力

概要

観点別学習状況の評価による授業改善

令和3年度は二つの研究授業を実施し、設定した評価規準を通して各自の授業を再確認するとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を実践した成果や課題などを検証、共有しました。そして、それを踏まえ、令和4年度は、観点別学習状況の評価による授業改善を進めました。教員一人ひとりが授業において子どもたちに身に付けてほしいと考えている力について、資質・能力の三つの柱をもとに振り返るとともに、そして、学習目標を改めて設定し、観点別学習状況の評価を行い、子どもたちの達成度を明らかにしました。その評価の結果を自身の授業としての評価にもつなげ、授業改善を行いました。全体会は2回実施し、2回めは学識経験者の協力も得ながら、校内研修を通して得た成果を学校全体で共有しました。

実施スケジュール

Research

5月25日(水) 実態把握 全体会に向けての打合せ

Vision

6月23日(木) 全体会① テーマ・目的の共有

Plan

7月～9月 指導案検討

Do

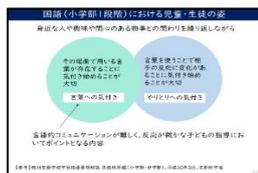
11月11日(金)
12月9日(金) 研究授業

Check & Act

1月20日(金) 全体会②・研究協議

全体会

6月23日(金)「観点別学習状況の評価について」



全体会①においては、学習指導要領の内容をもとにして、育成すべき資質・能力と観点別学習状況の評価についての講義を行いました。育成すべき資質・能力は、これからの社会を生きる子どもに必要な資質・能力であり、学習目標の設定と学習評価に当たっては一面的なものにならないようにすることや、評価規準の設定に当たってはおおむね達成できたと考えられる状況を具体的な子どもの姿として記述することの大切さについて講義しました。

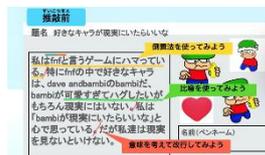
また、全体会①の後半では、架空の授業をもとにして、授業改善を行うワークを実施し、一人ひとりの教員が授業改善に対する認識を高める取り組みを行いました。

研究授業

学年・教科： 中学部 第1学年 国語科
単元名： 「詩を作ってみよう」

研究協議のポイント

見本となる様々な詩を鑑賞し、さらに、自分でテーマを設定して自由に詩を創作するという活動について協議を行いました。特に、子どもが考えたことや感じたことを発表したり、自由に詩を創作したりする場面において適切に観点別学習状況の評価を行うことの重要性や、子どもの思考力、判断力、表現



力等がさらに広がるような指導上の工夫について意見を交わすことができました。

学年・教科： 中学部 第2学年 音楽科
単元名： 「オリジナルリズムで和太鼓を演奏しよう」

研究協議の
ポイント

学年全体を学習班とした授業において、単元の評価規準をどのように設定すべきかについて協議を行いました。認知発達や生活経験等の実態が様々である子どもたちの学習活動において、一人ひとりの子どもをイメージしながら学習集団としての単元目標を設定すること、そして、一人ひとりの子どもの実態に応じた本時の目標と評価規準を設定すること、評価の場面・方法を工夫することの大切さについて確認することができました。



学年・教科： 高等部 第2学年 国語科・数学科
単元名： 「国数を探せ(料理のレシピ編)」

研究協議の
ポイント

教科等を合わせた授業における観点別学習状況評価の在り方について協議を行いました。特に、複数の教科の指導目標や指導内容を踏まえた単元を通したテーマを設定すること、そのテーマに基づき、子どもに身に付けてほしい資質・能力をイメージしながら単元目標や単元の評価規準を分かりやすく作成することの大切さや工夫の方法について確認しました。



学年・教科： 高等部 第3学年 自立活動
単元名： 「GIGA タブレット端末を使った学習」

研究協議の
ポイント

プリント教材と同様の内容を扱ったアプリとタブレット端末を使った自立活動の取組みにおいて、学習の成果をさらに高める方法や子どもたちにフィードバックする方法について協議を行いました。タブレット端末において取り組んだことを生活上の実際の場面においても取り組むことで生活上の困難さの改善につながるようにすることが大切であることを確認しました。

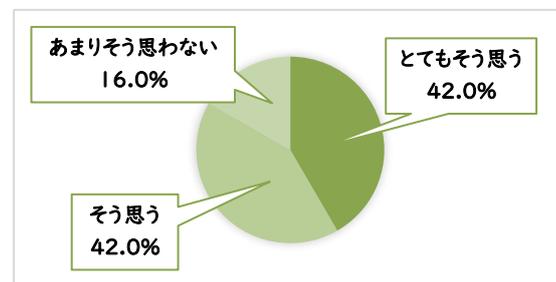
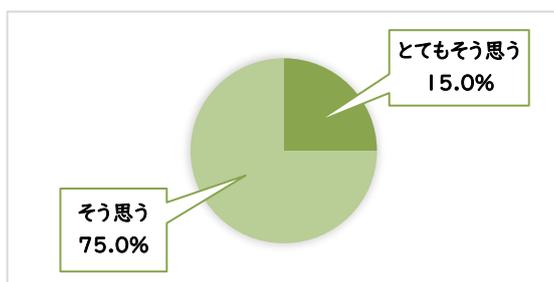


成果

全体会②では、4つの授業について分科会形式で振り返りました。前半は、主に観点別学習状況の評価について、授業者が自身の授業において大切だと感じたことを伝え、それを学校全体の授業改善に生かしていくことを確認しました。また、後半は、学校の授業スタンダードづくりをするという来年度の目標に向けて、「主体的な学び」について各分科会で話し合いました。各教員は担当教科に応じた様々な意見を出し合うなど、来年度に向けた一人ひとりの意識の高まりが感じられました。

① 学校のニーズにんでいた

② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想やご意見より)

- ・ 他学部の授業を見学することで、例えば、中学部の立場に立てば、小学部から進学してきた生徒はどのように力を身に付けているのか、高等部へ進学する生徒にはどれくらいの力を身に付けさせておかなければならないかを、具体的に実践として見て感じるができる。
- ・ 全体会②では、各教員が選択した小さい集団での分科会形式で進めたことで、参加者の興味関心の高さや活発な意見交換につながったと思います。
- ・ 学習指導案の新様式を作成し、新しい研究授業と研修のカタチを作ることができ、来年度の校内授業力向上に向けた取組みに生かすことができる良いモデルができました。

アンケート 結果